

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(英語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: イギリスの文化(1)

担当教員: 福西 由実子

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-EX1-B201

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:2

更新者: AA0916

更新日時: 2026-01-03 14:32:1

授業形式

面接授業(対面)

履修条件・関連科目等

本授業は、「イギリスの文化(2)」と連続した内容であるが、必ずしも両方を履修することを求めるものではない。両科目の関連性については、「授業の概要」を参照すること。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業は、現代イギリス文化を理解するための基礎として、「アイデンティティ」という観点から、イギリス社会に内在する複数性と多様性を考察することを目的とする。イギリス文化は、単一で均質なものとして存在してきたのではなく、地域、階級、ジェンダー、エスニシティ、宗教、世代など、複数の要素が歴史的に交差するなかで形成されてきたものである。本科目では、こうした多層的な文化的アイデンティティのあり方を、教育、労働、余暇、家族、若者文化、政治、言語、宗教、ヘリテージといった主題を通して概観する。

講義では、Mike Storry and Peter Childs 編 *British Cultural Identities* (6th ed., 2022) を理論的な参照枠としつつ、小説、映像、音楽、社会的現象などの具体的な文化表象を取り上げ、歴史的背景と結びつけながら検討する。入門科目として広範な主題を扱うが、単なる多様性の紹介にとどまらず、各主題がどのように「イギリス的なもの」を構成してきたのかを整理し、理解することを重視する。なお、本科目で提示する視点や枠組みは、後期開講科目「イギリスの文化(2)」において、主題別の文化要素を通じた分析へと発展させるが、両科目はそれぞれ独立した科目として履修可能である。

科目目的

- ・イギリス文化およびアイデンティティを理解するための基礎的知識と視点を提供する。
- ・イギリス社会における複数性・多様性の具体的な構造と背景を明らかにする。
- ・特定地域としてのイギリス文化を学問的に分析するための基本的枠組みを示す。

到達目標

- ・イギリス文化研究に必要な基礎的専門知識を理解し、説明できるようになる。
- ・社会・文化的事象を複数の視点から捉え、整理して考察できるようになる。
- ・授業で学んだ内容を踏まえ、自身の考えを論理的に表現できるようになる。

授業計画と内容

- 第1週 導入—「イギリス」とは何か
伝統的イメージ、国民的物語、ナショナル・アイデンティティ
- 第2週 地域と人びと—場所とネイション
ネイション、カントリー、リージョン、都市と村落
- 第3週 教育・労働・余暇(1)
教育制度と社会階層、大学文化、雇用と変化する労働観
- 第4週 教育・労働・余暇(2)
余暇文化、消費、娯楽とライフスタイルの変化
- 第5週 ジェンダー・セクシュアリティ・家族
家族の変容、ジェンダーと制度、結婚・離婚・セクシュアリティ
- 第6週 若者文化とスタイル
若者文化、ファッション、音楽・メディアとアイデンティティ
- 第7週 階級と政治
社会階級、政治制度、社会意識の変化
- 第8週 前半のまとめ
現代イギリス文化におけるアイデンティティの諸相
- 第9週 エスニシティと言語
英語の多様性、少数言語、移民と新しいアイデンティティ
- 第10週 宗教
国教会、宗教と社会、多宗教社会としてのイギリス
- 第11週 ヘリテージ(1)
歴史の再編、建築と場所、ヘリテージ産業
- 第12週 ヘリテージ(2)
「伝統」の創出、オリンピックとナショナル・イメージ
- 第13週 現代イギリスの行方

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後に課されるレポート課題に取り組み、授業翌日の正午までに提出すること。
このほか、授業回によっては、指定された演劇や映画を授業前に鑑賞しておくよう指示することがある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 学期を通じて得たイギリス文化に関する知識の定着度を評価するとともに、授業で学んだ内容に基づいて自らの考察を論述する力を問う。すべて記述式とし、持ち込みは一切不可とする。
レポート	50% 各回の授業内容を踏まえたレポート課題を課す。授業日翌日の正午までに、manaba「小テスト」から提出すること(300字以上)。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

教科書は使用しない。授業日の前日に、講師が講義資料をPDF等のファイルでmanabaを通じて配信する。原則として紙の資料は配布しないため、必要に応じてプリントアウト、またはダウンロードすること。

【参考文献】

- ・Mike Storry and Peter Childs (eds.), *British Cultural Identities*, 6th ed., (London: Routledge, 2022).
- ・海老島均他編著『アイルランドを知るための70章』第3版(明石書店、2019年)
- ・木村正俊編著『スコットランドを知るための65章』(明石書店、2015年)
- ・近藤久雄編著『イギリスを知るための65章』第2版(明石書店、2014年)
- ・下楠昌哉他編著『イギリス文化入門』新版(三修社、2023年)
- ・長谷川貴彦『イギリス現代史』(岩波新書、2017年)
- ・吉賀憲夫編著『ウェールズを知るための70章』第3版(明石書店、2019年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(英語)の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： イギリスの文化(2)

担当教員： 福西 由実子

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 火4

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-EX1-B202

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:2

更新者： AA0916

更新日時： 2026-01-03 14:32:0

授業形式

面接授業(対面)

履修条件・関連科目等

本授業は、「イギリスの文化(1)」と連続した内容であるが、必ずしも両方を履修することを求めるものではない。両科目の関連性については、「授業の概要」を参照すること。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業は、「イギリスの文化(1)」で提示した社会的・文化的枠組みを踏まえ、現代イギリス文化におけるアイデンティティの諸相を、主題別の視角から考察することを目的とする。前期科目が、イギリス文化を理解するための基礎として、歴史的・社会的背景や主要な概念を中心に全体像を整理したのに対し、本科目では、植物、食、芸術、音楽、動物といった具体的な文化要素に注目し、日常文化や象徴表象を通してイギリス社会の複数性・多様性を検討する。

文化は抽象的な理念として存在するのではなく、モノ、イメージ、音、慣習、語りといった具体的な形を通じて共有され、再解釈されてきたものである。本授業では、こうした文化的事象を分析対象とし、歴史的背景を踏まえながら、それぞれがどのように「イギリス的なるもの」を形作ってきたのかを読み解く。講義では、小説、絵画、建築、音楽、映像作品、社会的事象など多様な資料を用い、文化要素と帝国、階級、ジェンダー、宗教、移民、公共性といった問題との関係を整理する。入門科目として広範な主題を扱うが、単なる事例紹介にとどまらず、文化的アイデンティティの構造を体系的に理解することを目指す。

科目目的

- ・イギリス文化およびアイデンティティを、具体的な文化要素を通して多角的に考察する。
- ・植物、食、芸術、音楽、動物といった文化的事象と、その歴史的・社会的背景との関係を明らかにする。
- ・特定地域としてのイギリス文化を、主題別の視角から学問的に分析するための方法を示す。

到達目標

- ・イギリス文化に関する基礎的専門知識を踏まえ、具体的な文化事象を分析し、位置づけて説明できるようになる。
- ・文化表象や日常の実践を複数の視点から捉え、社会的文脈の中で考察できるようになる。
- ・授業で扱った事例をもとに、自身の考えを論理的に表現できるようになる。

授業計画と内容

- 第1週 導入—「イギリス」を主題から読む
前期内容の確認と、本科目の視角(主題別アプローチ)
- 第2週 植物(1)
庭園文化、風景表象、イングリッシュネス
- 第3週 植物(2)
帝国と植物、収集・分類、博物学と知の制度
- 第4週 植物(3)
都市空間、公園、環境意識と公共性
- 第5週 食べ物・飲み物(1)
伝統料理と飲食文化、国民的嗜好と儀礼
- 第6週 食べ物・飲み物(2)
移民文化と食、多文化社会における変容
- 第7週 食べ物・飲み物(3)
階級、地域、ジェンダーと食文化
- 第8週 美術(1)
美術とナショナル・イメージ、制度としての美術館
- 第9週 美術(2)
近現代美術と歴史記憶、批判的表象
- 第10週 音楽(1)
国歌、儀礼、共同体と音楽
- 第11週 音楽(2)
大衆音楽と若者文化、階級・世代・地域性
- 第12週 動物(1)
象徴としての動物、ペット文化と社会構造
- 第13週 動物(2)
文学・映像における動物表象と文化的想像力

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後に課されるレポート課題に取り組み、授業翌日の正午までに提出すること。
このほか、授業回によっては、指定された演劇や映画を授業前に鑑賞しておくよう指示することがある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	学期を通じて得たイギリス文化に関する知識の定着度を評価するとともに、授業で学んだ内容に基づいて自らの考察を論述する力を問う。すべて記述式とし、持ち込みは一切不可とする。
レポート	50%	各回の授業内容を踏まえたレポート課題を課す。授業日翌日の正午までに、manaba「小テスト」から提出すること(300字以上)。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

教科書は使用しない。授業日の前日に、講師が講義資料をPDF等のファイルでmanabaを通じて配信する。原則として紙の資料は配布しないため、必要に応じてプリントアウト、またはダウンロードすること。

【参考文献】

授業内容に応じて、適宜授業中に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: イギリス文学史(1)**担当教員: 丹治 竜郎**

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 2・3年次担当

科目ナンバー: LE-LT2-B203

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:2

更新者: AA9907

更新日時: 2025-12-04 16:52:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イギリス文学の偉大な伝統に属する作家の代表作を中心に古英語の時期から18世紀前半までのイギリス文学のおおまかな流れを把握する講義形式の授業です。社会的・文化的な背景を踏まえながら、主要な作家・作品を紹介していきます。配布資料で作品の一部を読みます。

科目目的

イギリス文学の歴史および主要な作家・作品について概括的な知識を身に着けること。

到達目標

イギリス文学の主要な作品について、どのような時代においてだれによって書かれたかがぼんやりと記憶に残っている。

授業計画と内容

- 第1回 古英語文学: Beowulf
- 第2回 中英語文学: Piers PlowmanとSir Gawain and the Green Knight
- 第3回 中英語文学: Chaucer
- 第4回 チューダー朝とスチュアート朝の時代の社会と文学
- 第5回 チューダー朝(1485-1603)初期の詩と散文: More, Sidney, Spenser
- 第6回 チューダー朝(1485-1603)の演劇: Shakespeareの歴史劇、喜劇、詩
- 第7回 チューダー朝(1485-1603)の演劇: Shakespeareの悲劇とロマンス劇
- 第8回 チューダー朝(1485-1603)の演劇: Marlowe, Jonson (manaba)
- 第9回 スチュアート朝(1603-1714)の詩: Metaphysical PoetsとCavalier Poets
- 第10回 スチュアート朝(1603-1714)の詩: MiltonとDryden
- 第11回 スチュアート朝(1603-1714)の散文: Bunyan, Pepys, Locke
- 第12回 新古典主義の時代(18世紀前中期)の社会と文学
- 第13回 新古典主義時代の詩と散文: PopeとSwift
- 第14回 まとめ: 古英語時代から18世紀までのイギリス文学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 期末試験の得点にもとづいて評価する
レポート	0%
平常点	20% 授業中に行う小テストの得点にもとづいて評価する。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

授業でプリントを配布します。

【参考書】

Michael Alexander, A History of English Literature (Palgrave Macmillan)

Ronald Carter and John McRae, The Routledge History of Literature in English: Britain and Ireland (Routledge)

Ronald Carter and John McRae, The Penguin Guide to Literature in English: Britain and Ireland (Penguin)

Andrew Sanders, The Short History of English Literature (Oxford UP)

Paul Poplawski, ed., English Literature in Context (Cambridge UP)

Margaret Drabble, ed., The Oxford Companion to English Literature (Oxford UP)

内田能嗣『イギリス文学史』(大阪教育図書)

上田和夫(編)『イギリス文学辞典』(研究社)

青木和夫、丹治竜郎、安藤和弘『知っておきたいイギリス文学』(明治書院)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(英語)の必修科目です。

科目名： イギリス文学史(2)**担当教員： 丹治 竜郎**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B204

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA9907

更新日時：2025-12-04 16:53:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イギリス文学の偉大な伝統に属する作家の代表作を中心に18世紀から20世紀初頭までのイギリス文学のおおまかな流れを把握する講義形式の授業です。文化的・思想的背景などを踏まえながら、主要な作家・作品を紹介していきます。配布資料で作品の一部を読みます。

科目目的

イギリス文学の歴史および主要な作家・作品について概括的な知識を身に着けること。

到達目標

イギリス文学の主要な作品について、どのような時代においてだれによって書かれたかがぼんやりと記憶に残っている。

授業計画と内容

- 第1回 小説の勃興：概要
- 第2回 小説の勃興：Defoe
- 第3回 小説の勃興：RichardsonとFielding
- 第4回 小説の勃興：Sterne
- 第5回 Samuel Johnsonおよび感受性の時代(18世紀後期)
- 第6回 ロマン主義時代(1790-1837)の社会と文学
- 第7回 ロマン主義時代(1790-1837)の詩：Blake, Wordsworth, Coleridge
- 第8回 ロマン主義時代(1790-1837)の詩：Byron, Shelley, Keats
- 第9回 ロマン主義時代(1790-1837)の小説：Jane Austen
- 第10回 ヴィクトリア朝時代(1837-1901)の社会と文学
- 第11回 ヴィクトリア朝最盛期の小説：DickensとEliot
- 第12回 世紀末文学：PaterとWilde
- 第13回 20世紀初期の社会と文学
- 第14回 まとめ：18世紀から20世紀初頭までのイギリス文学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 期末試験の得点にもとづいて評価する
レポート	0%
平常点	20% 授業中に行う小テストの得点にもとづいて評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

授業でプリント配布します。

【参考書】

Michael Alexander, A History of English Literature (Palgrave Macmillan)

Ronald Carter and John McRae, The Routledge History of Literature in English: Britain and Ireland (Routledge)

Ronald Carter and John McRae, The Penguin Guide to Literature in English: Britain and Ireland (Penguin)

Andrew Sanders, The Short History of English Literature (Oxford UP)

Paul Poplawski, ed., English Literature in Context (Cambridge UP)

Margaret Drabble, ed., The Oxford Companion to English Literature (Oxford UP)

内田能嗣『イギリス文学史』(大阪教育図書)

上田和夫(編)『イギリス文学辞典』(研究社)

青木和夫、丹治竜郎、安藤和弘『知っておきたいイギリス文学』(明治書院)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代イギリス小説(1)**担当教員：大田 美和**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B205

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0322

更新日時：2026-01-12 23:21:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代イギリス小説について、ジェンダーの視点によって考えます。manabaのコンテンツにアップしたレジュメにしたがって、小説の抜粋を英語で読み、鑑賞し、研究する姿勢を身につけます。

科目目的

フェミニスト批評やジェンダー論の視点から近代イギリス小説を学ぶことによって、文学テキストや映像について主体的に問題意識をもって問いかけ、思考し、社会について人間についての思考を深めることをめざします。優れた文学作品や芸術作品に対して心を開き、感動を言葉で表現する力を高めることもめざします。

到達目標

ブリタニカオンラインや文学事典の項目などを、英語で読む力を身につける。

中大図書館データベースの「ジャパンナレッジ」や「ブリタニカオンライン」(英語)や「Literature Online」や「Gale Literature」などを活用できるようになる。

イギリス小説の特徴と発展について理解する。

近代イギリス小説の名場面の短い抜粋を、原文の英語で読み、味わい、研究のきっかけになる問題点を見つける力を身につける。

文学研究の基本的な姿勢を身につけ、与えられた課題についてショートレポートが書けるようになる。

インターネット上の学びに役立つウェブサイトを利用することができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション 近代小説においてなぜ結婚や家族が問題になるのか? 家父長制とは何か? 「女」の表象と階級、人種、帝国、進化論 科学的言説と文学テキストの関係
- 第2回: 二つの女性像と「女」の病気、家庭
- 第3回: 既婚女性の権利獲得運動史 Barbara Leigh-Smith Bodichon と Caroline Norton
- 第4回: Jane Austen (1) 「女」である困難を乗り越える方法 “Beautiful Cassandra”
- 第5回: Jane Austen (2) 女は馬鹿なふりをしたほうが得? Northanger Abbey
- 第6回: Jane Austen (3) 結婚市場における「女」の売買としての結婚 Pride and Prejudice
- 第7回: Jane Austen (4) Persuasionのヒロインの「女らしさ」
- 第8回: The Brontë Sisters (1) Jane Eyre のfeminist manifest あるいは人権宣言
- 第9回: The Brontë Sisters (2) Vilette の二人の男を愛する「女」
- 第10回: The Brontë Sisters (3) ヒースクリフは「女」か? Wuthering Heights
- 第11回: The Brontë Sisters (4) DV、児童虐待とThe Tenant of Wildfell Hall
- 第12回: 近代の女の規範をクィアする レズビアン女領主 Miss Anne Lister の日記
- 第13回: 性自認、性的指向、性表現、結婚、非婚の違いを超えて Brontë, Mary Taylor, Anne Lister
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書は授業で扱わない部分も自分で読んで下さい。小テストで教科書から出題することがあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	与えられた課題について十分に考察したショートレポートが執筆できるかどうかを評価します。
平常点	50%	リアクションペーパーの解答を採点評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席は不可となります。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 浦野 郁、奥村 沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』ミネルヴァ書房、2020年 ISBN: 9784623087747

参考書・参考資料等:
 石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年
 メリン・ウィリアムズ『女性たちのイギリス小説』南雲堂、2005年。

松岡光治編『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』溪水社、2010年。
ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』平凡社ライブラリー、2015年。
Shattock, Joanne. Ed. Women and Literature in Britain 1800-1900. Cambridge: Cambridge UP, 2001.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代イギリス小説(2)

担当教員：大田 美和

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B206

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0322

更新日時：2026-01-09 15:34:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代イギリス小説について、ジェンダーの視点によって考えます。manabaのコンテンツにアップしたレジュメにしたがって、小説の抜粋を英語で読み、鑑賞し、研究する姿勢を身につけます。

科目目的

フェミニスト批評やジェンダー論の視点から近代イギリス小説を学ぶことによって、文学テキストや映像について主体的に問題意識をもって問ひかけ、思考し、社会について人間についての思考を深めることをめざします。優れた文学作品や芸術作品に対して心を開き、感動を言葉で表現する力を高めることもめざします。

到達目標

ブリタニカオンラインや文学事典の項目などを、英語で読む力を身につける。

中大図書館データベースの「ジャパンナレッジ」や「ブリタニカオンライン」(英語)や「Literature Online」や「Gale Literature」などを活用できるようになる。

イギリス小説の特徴と発展について理解する。

近代イギリス小説の名場面の短い抜粋を、原文の英語で読み、味わい、研究のきっかけになる問題点を見つける力を身につける。

文学研究の基本的な姿勢を身につけ、与えられた課題についてショートレポートが書けるようになる。

インターネット上の学びに役立つウェブサイトを利用することができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション 近代小説ではなぜ結婚や家族が問題になるのか？
- 第2回 Elizabeth Gaskell (1) Mary Barton における経済格差社会と女の労働とセックス・ワーク
- 第3回 Elizabeth Gaskell (2) Cranford における牧師の娘と息子
- 第4回 Elizabeth Gaskell (3) ジェンダーと規範意識 “Martha Preston”と “Half A Life-Time Ago”
- 第5回 Elizabeth Gaskell (4) North and South はPride and Prejudiceか？ クィア・リーディングの試み
- 第6回 George Eliot (1) Gaskell のRuthとEliotのAdam Bede における婚外子と未婚の母
- 第7回 George Eliot (2) The Mill on the Floss における父と娘と息子
- 第8回 George Eliot (3) Silas Marner における血縁によらない家族
- 第9回 George Eliot (4) Middlemarch における夫婦と名誉
- 第10回 George Eliot (5) Daniel Deronda におけるDVと殺人
- 第11回 Thomas Hardy (1) ミドルクラスではない男性作家の「女」の表象 Tess of the d'Urbervilles
- 第12回 Thomas Hardy (2) ヴィクトリア朝の結婚制度に対する異議申し立て Jude the Obscure
- 第13回 その後のイギリス小説の進展 性自認、性的指向、性表現、結婚、非婚の違いを超えて
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書は授業で扱わない部分も自分で読んで下さい。小テストで教科書から出題することがあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 与えられた課題について十分に考察したショートレポートが執筆できるかどうかを評価します。
平常点	50% リアクションペーパーの解答を採点します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席は不可となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 浦野 郁、奥村 沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』ミネルヴァ書房、2020年 ISBN: 9784623087747

参考書・参考資料等:

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年

メリン・ウィリアムズ『女性たちのイギリス小説』南雲堂、2005年。

松岡光治編『ギャスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』溪水社、2010年。

ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』平凡社ライブラリー、2015年。

Shattock, Joanne. Ed. Women and Literature in Britain 1800-1900. Cambridge: Cambridge UP, 2001.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 現代イギリス小説(1)**担当教員： 安藤 和弘**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B207

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AB5026

更新日時：2025-11-22 22:14:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代英国文壇を代表する作家の一人であり、2017年度にはノーベル文学賞を受賞したKazuo IshiguroのThe Remains of the Day (1989)を読む。Ishiguroは日系人であり、そのためであろうか、日本でも良く紹介されている。講義は、まず作家についての概説をした後、毎週、一定のペース(下記「授業計画」参照)で、読みどころにスポットライトを当てながら、批評的な解説を加えつつ、作品を読み進めるかたちで行う。特に、「語り手」と「語り」に重点を置いた解説を行う。また、毎回、その回に読む範囲から大事な箇所を選び、その箇所の英文を精読する。回をこなすにつれて、作品中の場面ごとの解釈から、作品全体の解釈へと展開していく。

科目目的

今日のイギリスの文壇を代表する作家の作品に触れ、その作家の他の作品を読むきっかけを作ること。更に、現代イギリス小説一般への関心を高めること。

到達目標

文学作品を読みこなすための英語力を養成すること。文学作品の批評的な読みかたの基本的な術を身につけること。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 Prologue (1～20頁)
 - 第3回 Day one - evening (21～44頁)
 - 第4回 Day two - morning (45～64頁)
 - 第5回 Day two - morning (64～83頁)
 - 第6回 Day two - morning (83～110頁)
 - 第7回 Day two - afternoon (111～126頁)
 - 第8回 Day three - morning (127～141頁)
 - 第9回 Day three - evening (143～159頁)
 - 第10回 Day three - evening (159～180頁)
 - 第11回 Day three - evening (181～201頁)
 - 第12回 Day four - afternoon (203～228頁)
 - 第13回 Day six - evening (229～245頁)
 - 第14回 まとめ
- (以上は予定であり、変更はありえる。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

受講学生各自が参考資料として邦訳を使うのはかまわないが、講義では邦訳には一切触れず、解説はすべて原書の英文に基づいてなされるので、邦訳を読むだけでは講義についていくことができない。ゆえ、毎回の講義に向けて原書の指定範囲に、ざっとで良いので必ず目をとっておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

講義で示した読みかたをどれだけ理解し、講義で取り上げた問題群に沿って各自が読みを深めたかに拠る。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day, Faber and Faber. ペーパーバック版。生協に入荷される版を購入のこと。ISBN: 978-0571258246。他の版の使用は、電子書籍版も含めて、認めない。
参考文献:
青木和夫・丹治竜郎・安藤和弘、『知っておきたいイギリス文学』(明治書院、2010)。ISBN: 978-4625686030。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 現代イギリス小説(2)**担当教員： 安藤 和弘**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B208

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AB5026

更新日時：2025-11-20 01:56:1

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行う。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代英国文壇を代表する作家の一人Ian McEwanのEnduring Love (1997)を読む。Amsterdam(1998)やAtonement(2001)、The Children Act (2014)などで知られている作家だが、この講座で扱うのは、それらに先行する名作である。愛を取りうるいくつかの形を理性と妄想の境界線上で描出する心理スリラー作品と、とりあえず、紹介しておく。講義は、まず作家についての概説をした後、毎週、一定のペース(下記「授業計画と内容」参照)で、読みどころにスポットライトを当てながら、批評的な解説を加えつつ、読み進めるかたちで行う。また、毎回、その回に読む範囲から大事な箇所を選び、その箇所の英文を精読する。回をこなすにつれて、作品中の場面ごとの解釈から、作品全体の解釈へと展開していく。

科目目的

今日のイギリスの文壇を代表する作家の作品に触れ、その作家の他の作品を読むきっかけを作ること。更に、現代イギリス小説一般への関心を高めること。

到達目標

文学作品を読みこなすための英語力を養成すること。文学作品の批評的な読みかたの基本的な術を身につけること。

授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 第1～2章
- 第3回 第3～4章
- 第4回 第5～6章
- 第5回 第7～8章
- 第6回 第9～10章
- 第7回 第11～12章
- 第8回 第13～14章
- 第9回 第15～16章
- 第10回 第17～18章
- 第11回 第20～21章
- 第12回 第22～23章
- 第13回 第24章
- 第14回 まとめ

(以上は予定であり、変更はありえる。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

受講生各自が参考資料として邦訳を使うのはかまわないが、講義では邦訳には一切触れず、解説はすべて原書の英文に基づいてなされるので、邦訳を読むだけでは講義についていくことができない。ゆえ、毎回の講義に向けて原書の指定範囲に、ざっとで良いので必ず目をとっておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	100%	講義で示した読みかたをどれだけ理解し、講義で取り上げた問題群に沿って各自が読みを深めたかに拠る。
期末試験	0%	
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Ian McEwan, Enduring Love, Vintage. ペーパーバック版。生協に入荷される版を購入のこと。ISBN: 978-0099276586。他の版の使用は、電子書籍版も含めて、認めない。

参考文献:

青木和夫・丹治竜郎・安藤和弘、『知っておきたいイギリス文学』(明治書院、2010)。

オフィスアワー

その他特記事項

文学史も含めて英文学についての予備知識は特に必要としない。

参考URL

科目名： イギリス詩(1)**担当教員： 兼武 道子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B209

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0122

更新日時：2025-12-23 16:37:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イギリス詩(1)と(2)で、ルネサンスから現代までの作品を読みます。(1)では、ルネサンスから18世紀の新古典主義までの作品を扱います。

授業では、詩の背景として、詩人とその時代や文化的な各種の事項について紹介と説明を行います。次に、文法や語句の説明を中心に詩の注釈を示し、日本語訳を提示します。最後に詩の解釈を述べて、「意味」の重層性を味わいます。

毎回の授業の最後にmanabaを介した小テストを受けてください。質問は授業で公開しますので、受験する人は必ず授業に出席して下さい。

期末には、800字の小レポートを書いて提出してください。

科目目的

イギリスの詩を読んで歴史と文化への理解を深めるとともに、正確で柔軟な英語の力をつけること。

到達目標

ひとつひとつの詩について、英語を正確に読み、内容を理解し、解釈を深めること。それぞれの詩人の表現方法の違いを知ること。好きな詩を選んで、自力で課題を設定し、議論を展開できるようになること。イギリスの文化についての理解を深めること。言葉に興味を持つこと。

授業計画と内容

以下の予定で授業を進めてゆきます。

- 1週目 導入・ルネサンスについて
- 2週目 Philip Sydney, _Astrophel and Stella_ 始まりの詩
- 3週目 Philip Sydney, _Astrophel and Stella_ 詩を書く秘訣についての詩
- 4週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ 青年貴族への詩 1
- 5週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ 青年貴族への詩 2
- 6週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ 青年貴族への詩 3
- 7週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ Dark Ladyへの詩 1
- 8週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ Dark Ladyへの詩 2
- 9週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ Dark Ladyへの詩 3
- 10週目 John Donneの恋愛詩
- 11週目 John Donneの宗教詩
- 12週目 John Miltonの叙事詩
- 13週目 Alexander Popeのコミカルな叙事詩
- 14週目 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 自分で選んだ詩について、授業の内容を理解した上で、説得力ある解釈を明快に展開できているかを見ます。
平常点	60% 授業の内容を正確に理解できているかを見ます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

manabaを通して授業で配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: イギリス詩(2)

担当教員: 兼武 道子

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-B210

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:2

更新者: AA0122

更新日時: 2025-12-23 16:38:4

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

イギリス詩(1)と(2)で、ルネサンスから現代までの作品を読みます。(2)では、ロマン派から現代までの作品を扱います。

授業では、詩の背景として、詩人とその時代や文化的な各種の事項について紹介と説明を行います。次に、文法や語句の説明を中心に詩の注釈を示し、日本語訳を提示します。最後に詩の解釈を述べて、「意味」の重層性を味わいます。

毎回の授業の最後には、manabaを介した小テストを受験してください。質問は授業で公開しますので、受験する人は必ず授業に出席して下さい。

期末には、800字の小レポートを書いて提出してください。

科目目的

イギリスの詩を読んで歴史と文化への理解を深めるとともに、正確で柔軟な英語の力をつけること。

到達目標

ひとつひとつの詩について、英語を正確に読み、内容を理解し、解釈を深めること。それぞれの詩人の表現方法の違いを知ること。好きな詩を選んで、自力で課題を設定し、議論を展開できるようになること。イギリスの文化についての理解を深めること。言葉に興味を持つこと。

授業計画と内容

- 以下の予定で授業を進めてゆきます。
- 1週目 導入・古典主義とロマン主義
 - 2週目 William Wordsworth 対話の詩
 - 3週目 William Wordsworth 叙情詩
 - 4週目 William Wordsworth 思索の詩
 - 5週目 William Blake 無垢と経験の詩
 - 6週目 William Blake 社会批判の詩
 - 7週目 William Blake 象徴的な詩
 - 8週目 John Keats 観察の詩
 - 9週目 Alfred Tennyson ステレオタイプ化された女性を描く詩
 - 10週目 Robert Browning 個性的な人物についての詩
 - 11週目 W. B. Yeats 妖精についての詩
 - 12週目 W. B. Yeats 芸術についての詩
 - 13週目 T. S. Eliot 自意識の詩
 - 14週目 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 自分で選んだ詩について、授業の内容を理解した上で、説得力ある解釈を明快に展開できているかを見ます。
平常点	60% 授業の内容を正確に理解できているかを見ます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

manabaを通して授業で配布します

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： アメリカの文化(1)**担当教員： 中尾 秀博**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 他

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-EX1-B301

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA9336

更新日時：2026-01-09 11:37:5

授業形式

この科目はオンライン形式で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

基本的に毎回ひとつのトピックやテーマを設定します。とりあげる予定のトピックやテーマは大半がハリウッド映画やポップスなどのポピュラー・カルチャー関連のものになります。

毎回のトピックやテーマについては授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告します。そのトピックやテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには段階的に五つ程度の作業が指定されています)。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、オーディオやビジュアルの素材に触れることで、トピックやテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくることが忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「小テスト」(400字以上)と「アンケート」(200字以上)に投稿してもらいます。解答の提出で出席確認としますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

- 「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」
- * 具体的には各回の講義のテーマやトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
 - * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
 - * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる

到達目標

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」ことを通じて以下の達成を目指す

- * 具体的には各回の講義のテーマやトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
 - * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
 - * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる
- 以上を通じて獲得した知見を文章化すること(毎回のQUIZ解答および中間・期末レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

授業計画と内容

初回と最終回は「イントロダクション」と「リキャピチュレーション」にあてます。
第7回は前半のおさらい 第13回は後半のおさらいをしてもらいます

- 第1回: アメリカにおける人種・言語・文化の多様性(イントロダクションに代えて)
- 第2回: ディズニー作品にみる多文化社会アメリカの現実との齟齬を隠蔽する「建国神話」
- 第3回: 米国の風景写真の変遷
- 第4回: 映画『ウェスト・サイド物語』とアメリカ性の虚構性: 今世紀の対立を予見し、作品内で提示された融合の可能性の困難さ
- 第5回: 映画『スーパーマン』のアメリカ性: 非現実的でありながらも大衆の夢の象徴としての存在
- 第6回: ポップスの起源: アフリカ系・アイルランド系・ユダヤ系のルーツを具体的な楽曲で確認する
- 第7回: 前半(第2回から第6回)のおさらい
- 第8回: 「キング・オブ・ロックンロール」エルビス・プレスリーの楽曲の変遷について
- 第9回: 1960年代のヒット曲(ビルボード・チャート)とその時代背景
- 第10回: ハリウッド映画におけるベトナム戦争の表象(アジア・アジア人のイメージ)
- 第11回: ポップアートのアメリカ性
- 第12回: 「キング・オブ・ポップ」マイケル・ジャクソンの楽曲の変遷について

第13回:後半(第8回から第12回)のおさらい
第14回:全体の総括(リキャピュチュレーションとして)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回のワークシートQUIZの解答の集計 (必ず400字以上で解答すること)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

中間・期末のレポートを提出していても
授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。
(QUIZの解答提出で出席チェックとします)

毎回のQUIZの解答も中間・期末のレポートも
規定の文字数制限を遵守すること!
(規定を満たさない場合は未提出扱いとします)
提出前に丁寧に読み直してケアレスミスをチェックすることを怠らないように!

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Malcolm Bradbury, ed. Introduction to American Studies (Longman, 1998)

オフィスアワー

その他特記事項

履修者への要望:おもにアメリカのポップ・カルチャーを扱うからといって、かならずしも肯定的で、ノーテンキな話に終始するわけではありません。直感的な好きさらいにとらわれたり、喰わずぎらいをしないようにしてください。各回の講義をヒントにして自分でも調べて、考えて、まとめる作業が重要です。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(英語)の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： アメリカの文化(2)**担当教員： 中尾 秀博**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 他

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-EX1-B302

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA9336

更新日時：2026-01-09 11:38:1

授業形式

この科目はオンライン(オンデマンド)形式で行います。全学授業支援システム manaba を使います。デスクトップ、ラップトップ、もしくはタブレットの使用を推奨します。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

基本的に毎回ひとつのトピックやテーマを設定します。とりあげる予定のトピックやテーマは大半がハリウッド映画やポップスなどのポピュラー・カルチャー関連のものになります。

毎回のトピックやテーマについて、授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告し、そのトピックやテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには五つ程度の作業が指定されています)。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、オーディオやビジュアルの素材に触れることで、トピックやテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくることが忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「小テスト」(400字以上)と「アンケート」(200字以上)に投稿してもらいます。解答の提出で出席確認としますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」

- * 具体的には各回の講義のトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
- * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べること
- * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる

到達目標

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」ことを通じて以下の達成を目指す

- * 具体的には各回の講義のトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
 - * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
 - * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる
- 以上を通じて獲得した知見を文章化すること(毎回のQUIZの解答および中間・期末レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようにする

授業計画と内容

初回と最終回は「イントロダクション」と「リキャプチュレーション」にあてます。詳細は未定ですが、各回のメニューは(ゆるやかに)前期の「アメリカの文化(1)」に対応させる予定です。たとえば、スーパーマン(前期)とバットマン(後期)とか、マイケル・ジャクソン(前期)とマドンナ(後期)とか。

とりあげる予定のトピックは、

第1回：マクドナルド化(イントロダクションに代えて)

第2回：American Landscape II

第3回：ゴスペルとブルースとジャズ

第4回：ハリウッド映画とジェンダー

第5回：アメリカン・コミック(バットマン)

第6回：1970年代とハリウッド映画

第7回：前半(第2回から第6回)のおさらい

第8回：1970年代とヒットソング

第9回：1980年代とハリウッド映画

第10回：1980年代とヒットソング

第11回：世紀末カタストロフ映画

第12回：マドンナ

第13回：後半(第8回から第12回)のおさらい

第14回:全体の総括(リキャピュチュレーションとして)などです。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回のワークシートQUIZの解答の集計(必ず400字以上で解答すること)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

随時、紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

履修者への要望: おもにアメリカのポップ・カルチャーを扱うからといって、かならずしも肯定的で、ノータンキな話に終始するわけではありません。直感的な好きさらいにとらわれたり、喰わずぎらいをしないようにしてください。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： アメリカ文学史(1)**担当教員： 高尾 直知**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B303

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0019

更新日時：2026-01-09 15:25:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

19世紀アメリカ文学の流れを概観します。講義形式で進めますが、作品からの抜粋などを読む際には、受講者にも解釈や意見を述べてもらうこともあります。また毎回の授業の終わりに、マナバへの投稿として、あるいは紙媒体として、レスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

科目目的

19世紀までのアメリカ文学を通観して、その時代の文学を研究するための基礎的知識を養います。

到達目標

19世紀までのアメリカ文学の概要を理解し、個別の作家について基礎的知識を得る。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ピューリタニズム1(ウインスロプ)
- 第3回：ピューリタニズム2(ジョナサン・エドワーズとベンジャミン・フランクリン)
- 第4回：トランセンデントリズム(エマソンとソロー)
- 第5回：アメリカン・ルネサンス1(ホーソーン 1)
- 第6回：アメリカン・ルネサンス2(ホーソーン 2)
- 第7回：アメリカン・ルネサンス3(メルヴィル 1)
- 第8回：アメリカン・ルネサンス4(メルヴィル 2)
- 第9回：アメリカン・ルネサンス5(ポー)
- 第10回：アメリカン・ルネサンス6(ホイットマン、ディキンソン)
- 第11回：スレイヴ・ナラティブ(ダグラスとハリエット・ジェイコブズ)
- 第12回：南北戦争(リンカン、ストウ)
- 第13回：リアリズム2(トウェイン)
- 第14回：自然主義(ドライサー)とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 提示されたパッセージについて、作家名作品名出版年の指摘と、文学史的意味を問う。
- レポート 0%

レポート

平常点 30% 毎回のリアクション・ペーパーによる。

その他 30% 授業中の担当範囲についての発表による。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク

- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 必要なPDFを配布します。テキストはコースコンテンツからダウンロードできます。

参考書・参考資料等:

竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』(ミネルヴァ書房)

大橋健三郎ほか編『総説アメリカ文学史』(研究社)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(英語)の必修科目です。

科目名： アメリカ文学史(2)**担当教員： 中野 学而**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B304

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA1540

更新日時：2026-01-11 05:50:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

20世紀アメリカ文学の流れを概観します。講義形式で進めますが、作品からの抜粋などを読む際には、受講者にも解釈や意見を述べてもらうこともあります。また毎回の授業の終わりに、マナバへの投稿として、あるいは紙媒体として、レスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

科目目的

20世紀アメリカ文学の流れをさまざまな問題意識から概観することで、現代社会に通じる問題点に主体的かつ複眼的に取り組むための基礎的な態度を身につける。

到達目標

20世紀アメリカ文学の基礎的な知識が身についたか。現代社会における問題点に主体的に取り組む姿勢が身についたか。

授業計画と内容

授業計画

- 第1回： イントロダクション
- 第2回： 第一次大戦前夜——進化論、フロイト、マルクスの衝撃
- 第3回： モダニズム(1) Ernest Hemingway
- 第4回： モダニズム(2) F. Scott Fitzgerald
- 第5回： William Faulknerとアメリカ南部文学
- 第6回： 1930年代のアメリカ文学
- 第7回： ハーレム・ルネサンス
- 第8回： アメリカ南部の女性作家
- 第9回： ユダヤ系アメリカ文学
- 第10回： カウンター・カルチャーとアメリカ文学
- 第11回： アフリカン・アメリカンの文学(1) リチャード・ライト
- 第12回： アフリカン・アメリカンの文学(2) トニ・モリスン
- 第13回： ネイティブ・アメリカンとアメリカ文学、ポストモダニズム以降のアメリカ文学
- 第14回： まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 20世紀アメリカ文学の基礎的な知識が習得できたかどうかを見ます。
レポート	0%

レポート

平常点 50% レスポンスペーパーを通じ、授業の内容を踏まえて主体的に問題意識を表現することができるかを見ます。なお、5回以上の欠席のあったものは評価の対象とはしません。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

竹内理矢、山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学』ミネルヴァ書房、2021年。
ISBN 978-4-623-09077-8

★講義開始までに必ず生協で購入しておくこと。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代アメリカ小説(1)

担当教員：高尾 直知

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B305

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0019

更新日時：2026-01-09 15:31:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ここでは、少女小説の草分けともいえる『若草物語』の作者、Louisa May Alcott (1832-88)の大人向け小説を読みます。前期は中編・短編を読む予定です。詳しい作品名は、授業計画を見てください。オルcottといってもいわゆる「少女趣味」(この語の持つ性差別的な響きはさておいて)な授業をおこなうということではなくて、作家が作品の中でいかにジェンダー・ストラテジーを発揮して物語構成を交渉しているかという点に注目しながら、作品を批判的に読むことを学びます。授業の形式は、発表者の方に、(1)担当の範囲(短編ひとつを前半、後半に分けます)の要約、(2)範囲内で理解しにくいと思われる語句の解説、(3)重要と思われるテーマについて発表していただきます。そののち、教員による解説とディスカッションをおこなうという形で進めていきます。

科目目的

作品を原文で精読し、アメリカ文学および文化について学ぶと同時に、批評的思考と作品解釈の基礎を身に付けることを目的とします。また、プレゼンテーション能力、ディスカッションの作法、レポート作成の技術、及び英語読解力の向上を目指します。

到達目標

文学作品の精読と作品の背景の理解を通じて、批評的思考を身につけると同時にアメリカの文化、歴史、社会について知り考えることを目標とします。十分な予習に基づいて自分の意見を明確に論理的に述べることが求められます。

授業計画と内容

- 第1回: インTRODクシヨン
- 第2回: "Pauline's Passion and Punishment" (1章) ポーリーンの情熱
- 第3回: "Pauline's Passion and Punishment" (2章) ポーリーンの復讐
- 第4回: "Pauline's Passion and Punishment" (3-4章) とまとめの解説 ポーリーンの受けた罰
- 第5回: "The Mysterious Key" (1-3章) 過去の秘密
- 第6回: "The Mysterious Key" (4-6章) イタリアの意味
- 第7回: "The Mysterious Key" (7-8章) とまとめの解説 姉妹のような愛
- 第8回: "My Contraband" (前半) 南北戦争の意味
- 第9回: "My Contraband" (後半) 奴隷の意味
- 第10回: "My Contraband" 解説 復讐の意味
- 第11回: "Taming a Tartar" (1-2章) 女性の立場
- 第12回: "Taming a Tartar" (3, 6章) 男性の立場
- 第13回: "Taming a Tartar" (7章) とまとめの解説 両性の平等とは
- 第14回: まとめ議論 オルcottの改革

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	30%	扱った作品についてオリジナルな議論を提示しているかどうか。
平常点	40%	授業中やリアクションペーパーに、自分の意見を明確に述べて、作品解釈の構築に資する発言・コメントをおこなったかどうか。
その他	30%	授業中の発表において、自身の作品解釈を明確に提示して、その論拠をしめすことができたかどうか。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
 PDFをmanabaにて配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代アメリカ小説(2)**担当教員：高尾 直知**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B306

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0019

更新日時：2026-01-09 15:46:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ここでは、少女小説の草分けともいえる『若草物語』の作者、Louisa May Alcott (1832-88)の大人向け小説を読みます。後期は長編を読む予定です。詳しい作品名は、授業計画を見てください。オルcottといってもいわゆる「少女趣味」(この語の持つ性差別的な響きはさておいて)な授業をおこなうということではなく、作家が作品の中でいかにジェンダー・ストラテジーを発揮して物語構成を交渉しているかという点に注目しながら、作品を批判的に読むことを学びます。授業の形式は、発表者の方に、(1)担当の範囲(1章程度)の要約、(2)範囲内で理解しにくいと思われる語句の解説、(3)重要と思われるテーマについて発表していただきます。そののち、教員による解説とディスカッションをおこなうという形で進めていきます。

科目目的

作品を原文で精読し、アメリカ文学および文化について学ぶと同時に、批評的思考と作品解釈の基礎を身に付けることを目的とします。また、プレゼンテーション能力、ディスカッションの作法、レポート作成の技術、及び英語読解力の向上を目指します。

到達目標

文学作品の精読と作品の背景の理解を通じて、批評的思考を身につけると同時にアメリカの文化、歴史、社会について知り考えることを目標とします。十分な予習に基づいて自分の意見を明確に論理的に述べることが求められます。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: _A Long Fatal Love Chase_(1-2章)ロザモンドの登場
- 第3回: _A Long Fatal Love Chase_(3-4章)テンペストの策略
- 第4回: _A Long Fatal Love Chase_(5-6章)ヴェニスにて
- 第5回: _A Long Fatal Love Chase_(7-8章)先妻の影
- 第6回: _A Long Fatal Love Chase_(9-10章)逃亡
- 第7回: _A Long Fatal Love Chase_(11-12章)オリーヌの援助
- 第8回: _A Long Fatal Love Chase_(13-14章)テンペスト再来
- 第9回: _A Long Fatal Love Chase_(15-16章)侯爵の援助
- 第10回: _A Long Fatal Love Chase_(17-18章)精神病院
- 第11回: _A Long Fatal Love Chase_(19-20章)イグナティウスの援助
- 第12回: _A Long Fatal Love Chase_(21-22章)テンペスト夫人
- 第13回: _A Long Fatal Love Chase_(23-24章)復讐
- 第14回: _A Long Fatal Love Chase_まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	扱った作品についてオリジナルな議論を提示しているかどうか。
平常点	40%	授業中やリアクションペーパーに、自分の意見を明確に述べて、作品解釈の構築に資する発言・コメントをおこなったかどうか。
その他	30%	授業中の発表において、自身の作品解釈を明確に提示して、その論拠をしめすことができたかどうか。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
pdfをmanabaで配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 現代アメリカ小説(1)

担当教員： デール、ジョシュア ポール

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 2～4年次担当

科目ナンバー： LE-LT2-B307

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:2

更新者： AA2231

更新日時： 2026-01-12 09:43:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

日本語

✓ 英語

ドイツ語

フランス語

中国語

その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

In this class we will read three short stories by the African American science fiction writer Octavia Butler. We will discuss issues of race, class and gender as well as the acceptance of people with disabilities in American culture. The class format will be lecture and discussion. Class requirements include short writing assignments, an oral presentation, and a final exam. The class will be conducted in English.

科目目的

Students will deepen their understanding of the diversity of American society and learn how to analyze American works of literature.

到達目標

Students will learn how to interpret literary works and study American culture. They will practice presenting their own arguments in oral presentations and in discussion. Students will improve their English ability, critical thinking and speaking skills.

授業計画と内容

- 1.Introduction
- 2.Lecture on Octavia Butler
3. “The Evening and the Morning and the Night”
4. “The Evening and the Morning and the Night”
5. “The Evening and the Morning and the Night”
- 6.Short videos about hip hop dancer and performance artist Bill Shannon aka “Crutchmaster”
7. “Bloodchild”
8. “Bloodchild”
9. “Bloodchild”
- 10.Oral presentations, day 1
- 11.Oral presentations, day 2
12. “Speech Sounds”
13. “Speech Sounds”
- 14.Course review: summary of issues connected to gender and disability in American culture.

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	The final exam will cover the course content.
レポート	0%	
平常点	25%	Oral presentations, group discussion; asking and answering questions during lectures.
その他	15%	Short writing assignments

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Texts will be posted to manaba.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 現代アメリカ小説(2)**担当教員： デール、ジョシュア ポール**

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 2～4年次担当

科目ナンバー： LE-LT2-B308

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:2

更新者： AA2231

更新日時： 2026-01-12 09:43:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

日本語

✓ 英語

ドイツ語

フランス語

中国語

その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

In this course we will discuss the differences in the image of robots and artificial intelligence (AI) between the United States and Japan. We will read three science fiction stories: Sarah Pinsker, "Bigger Fish," Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds" and Alastair Reynolds, "Polished Performance". We will also discuss real robots like LOVOT and Sony's aibo.

Analyzing the image of robots and AI in the United States will enable us to discuss broad themes connected to American culture.

The class will focus on student presentations and discussion.

The class will be conducted in English.

科目目的

The aim of this course is to improve students' ability to analyze both literature and culture. We will study how literature address questions such as what it means to be human.

到達目標

Students will improve their English ability, critical thinking and oral discussion / presentation skills. They will also learn how to critically analyze literary texts.

授業計画と内容

- 1.Introduction
- 2.Laws of Robotics: Isaac Asimov vs. Tezuka Osamu
- 3.Lecture/discussion on the image of robots and AI in the USA and Japan
- 4.Sarah Pinker, "Bigger Fish"
- 5.Sarah Pinker, "Bigger Fish"
- 6.Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
- 7.Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
- 8.Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
- 9.Oral presentations
- 10.Alastair Reynolds, "Polished Performance"
- 11.Alastair Reynolds, "Polished Performance"
- 12.Alastair Reynolds, "Polished Performance"
- 13.Emotion modeling in real robots: aibo and LOVOT
- 14.Course review: summary of themes related to robots and AI in the USA and Japan

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	The final exam will cover the course content.
レポート	0%	
平常点	25%	Oral presentations, group discussion; asking and answering questions during lectures.
その他	15%	Short writing assignments

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Texts will be handed out by the instructor.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アメリカ文学特殊研究(1)

担当教員: デール、ジョシュア ポール

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-EX2-B309

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:2

更新者: AA2231

更新日時: 2026-01-12 09:44:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course will investigate issues related to migration and cross-cultural identity in different generations. It considers what it means to be "American" in a multicultural society, and how identity transforms when people move to other countries.

We will read two graphic novels in this course. "We Are Not Strangers" by Josh Tuininga is based on a true story of a community's struggle with race, responsibility, and what it means to be an American during the second World War. "Himawari House" by Harmony Becker tells the story of three friends from different countries who explore their changing identities while living in contemporary Japan.

The class will be conducted in English.

科目目的

The purpose of this course is to learn about minority communities in the United States and explore issues surrounding their presence and participation in multicultural America and Japan. Students will improve both their ability to make presentations in English and their critical thinking skills.

到達目標

Students will improve their English ability, critical thinking and oral discussion / presentation skills. They will also learn how to critically analyze literary texts.

授業計画と内容

1. Introduction
2. Himawari House (HH) chapters 1-2; We Are Not Strangers (WANS) Introduction to p. 15
3. HH chapters 3-4; WANS pp. 16-35
4. HH chapters 5-6; WANS pp. 36-55
5. HH chapters 7-8; WANS pp. 56-71
6. HH chapters 9-10; WANS pp. 72-91
7. HH chapters 11-12; WANS pp. 92-109
8. HH chapters 13-14; WANS pp. 110-129
9. HH chapters 15-16; WANS pp. 130-167
10. HH chapters 17-18; WANS pp. 168-181
11. HH chapters 19-21
12. Discussion of final reports
13. Final lecture and discussion on the theme of ethnicity in multicultural societies.
14. Course review: summary of issues in multicultural America

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	The final exam will cover the course content.
レポート	0%	
平常点	25%	Oral presentations, group discussion; asking and answering questions during lectures.
その他	15%	Short writing assignments

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

The following textbooks are available at the student co-op:
Becker, Harmony. Himawari House. First Second Books. 2021. New York. ISBN 125023557X
Tuininga, Josh. We Are Not Strangers: A Graphic Novel. Harry N. Abrams (September 12, 2023)
ISBN: 1419759957

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： アメリカ文学文化研究(1)**担当教員： 久保 尚美**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-EX2-B311

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA1440

更新日時：2026-01-07 19:49:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アメリカ社会における人種と差別の問題に関して、19世紀に書かれた奴隷体験記(スレイヴ・ナラティブ)、20世紀前半に書かれた黒人文学作品などを取り上げ、文化・政治・ジェンダーといった側面から考えます。受講生は各回ごとに示される課題に取り組むことで理解を深めていきます。

科目目的

アメリカ社会における人種の問題の背景を学ぶとともに、それがどのように自伝や文学作品に示されているかを読み解く。

到達目標

- ・アメリカ社会の多様性について理解を深める。
- ・アメリカ文学作品を分析するにあたり、必要な専門知識の基礎を学ぶ。
- ・学んだ知見にもとづいて文学作品を解釈し、自分の言葉で表現する力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション、奴隷制と奴隷体験記
- 第2回: Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave 抜粋
- 第3回: Harriet Ann Jacobs, Incidents in the Life of a Slave Girl 抜粋
- 第4回: 奴隷制度廃止と人種隔離政策
- 第5回: Booker T. WashingtonとW. E. B. DuBois
- 第6回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ①
- 第7回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ②
- 第8回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ③
- 第9回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ④
- 第10回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ①
- 第11回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ②
- 第12回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ③
- 第13回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ④
- 第14回: まとめ

* 授業の進度により、第6回から第13回で扱う文学作品を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で紹介する文献や関連する作品を読むこと
 期末試験に向けた準備をすること

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	期末試験の得点により授業の理解度を評価します。 ・授業で扱う歴史的／文化的事項や概念を理解し、適切に説明できるか。 ・授業で扱うテキストを読み解き、その解釈を説得的に示すことができるか。
レポート	0%	
平常点	50%	各回の考察課題(レスポンスシート)への取り組みが主たる評価対象となります。なお受講者数によっては、個別に考察発表をしてもらい(1人1回)、その内容も評価対象となります。 ・講義内容を踏まえた考察がなされているか。 ・自分の考えを適切な文章で書くことができているか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席回数(毎回の考察課題提出回数)が70%に満たないものは、この授業の成績評価対象にならず「不可」となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業内で資料を配付します。
関連する文献等については、授業内で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アメリカ文学文化研究(2)

担当教員: 久保 尚美

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-EX2-B312

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:2

更新者: AA1440

更新日時: 2026-01-07 19:50:1

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

アメリカの人種問題における白人性について、白人の作家や思想家の書いた文学作品やエッセイを読んで考察します。受講生は各回ごとに示される課題に取り組むことで理解を深めていきます。

科目目的

アメリカ社会における人種の問題の背景を学ぶとともに、それがどのようにエッセイや文学作品に示されているかを読み解く。

到達目標

- ・アメリカ社会の多様性について理解を深める。
- ・アメリカ文学作品を分析するにあたり、必要な専門知識の基礎を学ぶ。
- ・学んだ知見にもとづいて文学作品を解釈し、自分の言葉で表現する力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション、アメリカ社会と人種問題(1)南北戦争以前
- 第2回: アメリカ社会と人種問題(2)南北戦争前後
- 第3回: アメリカ社会と人種問題(3)公民権運動 1
- 第4回: アメリカ社会と人種問題(4)公民権運動 2
- 第5回: William Faulkner, "Dry September," pp. 169-173
- 第6回: William Faulkner, "Dry September," pp. 173-175
- 第7回: William Faulkner, "Dry September," pp. 175-180
- 第8回: William Faulkner, "Dry September," pp. 180-183
- 第9回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 405-408
- 第10回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 408-412
- 第11回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 412-414
- 第12回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 413-417
- 第13回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 417-420
- 第14回: まとめ

* 授業の進度により、第5回から第13回で扱う文学作品を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- 授業で紹介する文献や関連する作品を読むこと
- 期末試験に向けた準備をすること

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	期末試験の得点により授業の理解度を評価します。 ・授業で扱う歴史的／文化的事項や概念を理解し、適切に説明できるか。 ・授業で扱うテキストを読み解き、その解釈を説得的に示すことができるか。
レポート	0%	
平常点	50%	各回の考察課題(レスポンスシート)への取り組みが主たる評価対象となります。なお受講者数によっては、個別に考察発表をしてもらい(1人1回)、その内容も評価対象となります ・講義内容を踏まえた考察がなされているか。 ・自分の考えを適切な文章で書くことができているか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席回数(毎回の課題提出回数)が70%に満たないものは、この授業の成績評価対象にならず「不可」となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

manabaを用いて資料を配付します。
関連する文献等については、授業内で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：世界の英語文学(1)**担当教員：中尾 秀博**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：他

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B381

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA9336

更新日時：2026-01-09 11:38:5

授業形式

この科目はオンライン(オンデマンド)形式で行います。
 全学授業支援システム manaba を使います。
 デスクトップ、ラップトップ、もしくはタブレットの使用を推奨します。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アフリカ、カリブ海地域、オーストラリアの英語圏文学を概観する予定です。なるべく多くの作品を、なるべくいい見方に見てゆくという両立しがたい企てをいくぶんか達成するために、講義ではおもに短篇をとりあげることになるでしょう。できるだけ映像作品なども紹介する予定です。

毎回の作品やテーマについて、授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告し、その作品やテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには五つ程度の作業が指定されています)。

作品のテキストは PDF 版が「コースコンテンツ」に掲載されていますので、ダウンロードして(できればプリントアウトするなどして)、予め下読みをしておいてください。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、作品やテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的なテキスト理解の深度が違ってくることを忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートの QUIZ の解答を「小テスト」(400字以上)と「アンケート」(200字以上)に投稿してもらいます。解答の提出で出席確認とします。提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

- アフリカ、カリブ海地域、オーストラリアの英語圏文学を概観する
 具体的には
- * 各地域・各国の短篇作品を読解する
 - * 各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景を理解する
 - * その過程で映像作品などの紹介も行う

到達目標

「アフリカ、カリブ海地域、オーストラリアの英語圏文学を概観する」を通して
 各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景な理解を重層化する過程で
 獲得した知見を文章化すること(毎回の QUIZ の解答および中間・期末レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション(植民地主義＝コロニアリズムと人種・階級・ジェンダー)
- 第2回：アフリカの短篇小説1 “Colour Blues”
- 第3回：アフリカの短篇小説2 “The Big Swallow”
- 第4回：アフリカの短篇小説3 “In the Shadow of War”
- 第5回：アフリカの短篇小説4 “The Moment before the Gun Went off”
- 第6回：カリブ海地域の詩1 “I am the Archipelago”
- 第7回：前半(第2回から第6回)のおさらい
- 第8回：オーストラリア篇のイントロダクション(植民地主義＝セトラー・コロニアリズム)
- 第9回：オーストラリアの抵抗文学 “Took the Children Away”
- 第10回：オーストラリアの短篇小説1 “Drover’s Wife”
- 第11回：オーストラリアの短篇小説2 “Drover’s Wife” の変奏
- 第12回：オーストラリアの映画1 “Night Cries”
- 第13回：後半(第8回から第12回)のおさらい

第14回:全体の総括(リキャピュチュレーションとして)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回のワークシートQUIZの解答の集計 (必ず400字以上で解答すること)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

PDF版を manaba に掲載します。

必要に応じて参照用のURLなどを紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名：世界の英語文学(2)

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：他

担当教員：中尾 秀博

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B382

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA9336

更新日時：2026-01-09 11:39:2

授業形式

この科目はオンライン形式で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「世界の英語文学(2)」では、ニュージーランドおよび太平洋諸島の英語圏文学を概観する予定です。なるべく多くの作品を、なるべくいい見方に見てゆくという両立したい企てをいくぶんか達成するために、講義ではおもに短篇をとりあげることになるでしょう。映像作品も紹介できればと思っています。

講義でとりあげる短篇のテキストは授業支援システム manaba の「コースコンテンツ」に掲載します。その短篇の理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには段階的に五つ程度の作業が指定されています)。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したワークシート解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくことを忘れないでください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「小テスト」(400字以上)と「アンケート」(200字以上)に投稿してもらいます。解答の提出で出席確認としますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

- ニュージーランドおよび太平洋諸島の英語圏文学を概観する
 具体的には
- * 各地域・各国の短篇作品を読解する
 - * 作者の経歴や他作品についても概観する
 - * 各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景を理解する
 - * その過程で映像作品などの紹介も行う

到達目標

「ニュージーランドおよび太平洋諸島の英語圏文学を概観する」ことを通して(作品および作家の理解を深めることで)各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景な理解を重層化する過程で獲得した知見を文章化すること(レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション 植民地主義と“White Man’s Burden”
- 第2回：“White Man’s Burden”とその変装
- 第3回：ニュージーランド短篇小説1 “A Dalmatian Woman”
- 第4回：ニュージーランド短篇小説2 “The Totara Tree”
- 第5回：ニュージーランド短篇小説3 “The Voyage”
- 第6回：ニュージーランド短篇小説4 “How Pearl Button Was Kidnapped”
- 第7回：前半のおさらい
- 第8回：ニュージーランド短篇小説5 “The Affectionate Kidnappers”
- 第9回：ニュージーランド短篇小説6 “Dark Jelly”
- 第10回：太平洋諸島の短篇小説1 “The Boat Girl”
- 第11回：太平洋諸島の短篇小説2 “The Coming of the White Man” (前半)
- 第12回：太平洋諸島の短篇小説3 “The Coming of the White Man” (後半)
- 第13回：後半のおさらい
- 第14回：総まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回の講義内容へのコメントやアンケートの回答など
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

中間・期末のレポートを提出していても
授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。
(QUIZの解答提出で出席チェックとします)

毎回のQUIZの解答も中間・期末のレポートも
規定の文字数制限を遵守すること!
(規定を満たさない場合は未提出扱いとします)
提出前に丁寧に読み直してケアレスミスをチェックすることを怠らないように!

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはPDFまたはプリントを配布(manaba「コンテンツ」格納)し、参考文献等は随時、授業時に紹介する

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 英語学概説(1)**担当教員： 若林 茂則**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LG1-B401

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0529

更新日時：2025-11-22 13:56:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

英語学は、単なる英語の分析にとどまらず、他の隣接科学とも提携しながら人間についての深い理解を目指す基礎学問の一つとして位置づけられる。言語が人間にとってどのようなものであるかという視点を失わないで、英語学の様々な分野へ足を踏み入れていながら、確かな英語理解と発展的な問題意識を身につけることを目指したい。

科目目的

言語とはどういうものかについて、英語(また日本語との比較)を題材にして学ぶ。

到達目標

英語学に関する基本的な用語や概念を理解する。

授業計画と内容

講義形式で英語学・言語学の主要テーマを順次取り上げる。

授業計画と内容(変更後)

- ・1. Introduction to English Linguistics
- ・2. Animal and human language
- ・3. The sounds of language
- ・4. The sound patterns of language
- ・5. Differences between English sounds and Japanese sounds
- ・6. Word formation
- ・7. Morphology (Introduction)
- ・8. Differences between English words and Japanese words
- ・9. Grammar
- ・10. Syntax
- ・11. Semantics
- ・12. Pragmatics
- ・13. 日本語話者の英語
- ・14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	90-100 優れている。用語や概念を十分に理解し、授業内容を論理的に組み立て、独自の証拠や考察を加えて議論している。 80-90 とても良い。用語や概念の理解に不十分な点は見られず、授業で扱った内容をカバーできている。 70-80 良い。重要な用語や概念は理解している。考察や表現において不十分な点があるものの、論理や証拠に支えられた独自の考察がある。 60-70 合格。用語や概念の理解に問題が見られるものの、授業で扱った内容の理解が明らかである。 0-60 不合格。用語や概念の理解に誤りがあり、論理性や証拠に欠ける。授業の内容を理解しているとは考えにくい。
レポート	0%	
平常点	50%	毎回の授業レポート ★授業レポートの提出は10回の予定。1回の提出が5点。 授業レポートの点数 Excellent (内容をよく理解し、さらに自分で調べたこと、考えたことが良くわかる) 5点 Very Good (内容を理解し、自分で考えた部分がある) 4点 Good (内容がほぼ理解できており、自分で考えた努力が見られる) 3点 Not Good (内容の理解に問題がある) 2点 Submitted (内容の理解が乏しい) 1点 ★毎回出しても平均2点以下では単位は出ない。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
Yule, G. (2023) The Study of Language, 8th edition. Cambridge University Press

参考文献:

大津由紀雄ほか監修 (2021)「言語研究の世界」研究社
窪園晴夫 (2019)「よくわかる言語学」ミネルヴァ書房

他にも随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(英語)の必修科目です。

科目名： 英語学概説(2)**担当教員： 若林 茂則**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LG1-B402

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AA0529

更新日時：2025-11-22 14:00:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代の英語学は、単なる英語の分析にとどまらず、他の隣接科学とも連携しながら人間についての深い理解を目指す基礎学問の一つとして位置づけられる。言語が人間にとってどのようなものであるかという基本的な問題意識を持續させて英語学のさまざまな分野へ足を踏み入れていながら、正確な英語理解と発展的な問題意識を身につけることを目指したい。

科目目的

言語とはどういうものかについて、英語(また日本語との比較)を題材にして学ぶ。

到達目標

英語学に関する基本的な用語や概念を理解する。

授業計画と内容

講義形式で英語学・言語学の主要テーマを順次取り上げる。

1. Introduction to English linguistics: Its system, use, and acquisition
2. Discourse analysis
3. Language and the brain
4. First language acquisition
5. Second language acquisition/learning
6. Linguistics-based second language acquisition studies (1)
7. Linguistics-based second language acquisition studies (2)
8. Gestures and sign languages
9. Written language
10. Language history and change
11. Regional variation in language
12. Social variation in language
13. Language and culture
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 90-100 優れている。用語や概念を十分に理解し、授業内容を論理的に組み立て、独自の証拠や考察を加えて議論し

ている。
 80-90 とても良い。用語や概念の理解に不十分な点は見られず、授業で扱った内容をカバーできている。
 70-80 良い。重要な用語や概念は理解している。考察や表現において不十分な点があるものの、論理や証拠に支えられた独自の考察がある。
 60-70 合格。用語や概念の理解に問題が見られるものの、授業で扱った内容の理解が明らかである。
 0-60 不合格。用語や概念の理解に誤りがあり、論理性や証拠に欠ける。授業の内容を理解しているとは考えにくい。

レポート	0%	
平常点	50%	毎回の授業レポート ★授業レポートの提出は10回の予定。1回の提出が5点。 授業レポートの点数 Excellent (内容をよく理解し、さらに自分で調べたこと、考えたことが良くわかる) 5点 Very Good (内容を理解し、自分で考えた部分がある) 4点 Good (内容がほぼ理解できており、自分で考えた努力が見られる) 3点 Not Good (内容の理解に問題がある) 2点 Submitted (内容の理解が乏しい) 1点 ★毎回出しても平均2点以下では単位は出ない。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
 その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 授業中に指示します。
 Yule, G. (2023) The Study of Language, 8th edition. Cambridge University Press

参考文献:
 大津由紀雄ほか監修 (2021)「言語研究の世界」研究社
 窪園晴夫 (2019)「よくわかる言語学」ミネルヴァ書房

他にも随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語史(1)**担当教員： 福元 広二**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 木3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B403

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：AD1723

更新日時：2025-11-23 15:28:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。前期は前史から中英語期までを、後期は中英語期から現代英語期までを扱う。

科目目的

英語の歴史を学ぶことで、現代英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

到達目標

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 世界語としての英語
- 第3回 英語外面史の概観
- 第4回 インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
- 第5回 古英語期における社会的・文化的時代背景
- 第6回 古英語の名詞
- 第7回 古英語の代名詞
- 第8回 古英語の形容詞・副詞
- 第9回 古英語の動詞活用
- 第10回 古英語の語順・否定
- 第11回 古英語の作品講読
- 第12回 中英語期における社会的・文化的時代背景
- 第13回 中英語の名詞・形容詞
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 英語史の基礎知識を理解した上で、英語の特徴を英語史的観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%

平常点 40% 授業への参加・貢献度、ミニッツ・ペーパーの取り組みの状況を基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提基準:出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
宗宮喜代子『歴史をたどれば英語がわかる』2024年 開拓社

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語史(2)**担当教員： 森田 真登**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B404

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:2

更新者：XEC627

更新日時：2026-01-12 23:49:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々がブリテン島に渡ってからの約1500年間における歴史的・社会的・文化的背景と、その間に英語に生じた音韻・形態・統語・意味・語彙などの変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界共通語となってきたかを解説する。後期は中英語期から現代英語期までを扱う。

科目目的

英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

到達目標

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明できる。
中英語や近代英語で書かれた文章を、教科書や辞書を用いながら和訳することができる。
現代英語の不規則に見える文法等について、英語史の観点から説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中英語の形容詞・動詞
- 第3回 中英語に特徴的な文法
- 第4回 中英語期における借用語
- 第5回 中英語の文学作品講読：頭韻詩
- 第6回 中英語の文学作品講読：脚韻詩
- 第7回 初期近代英語に特徴的な文法
- 第8回 初期近代英語期における借入語
- 第9回 初期近代英語の文学作品講読
- 第10回 後期近代英語に特徴的な文法
- 第11回 聖書翻訳の比較：中英語訳聖書と近代英語訳聖書の比較
- 第12回 聖書翻訳の比較：様々な現代英語訳聖書の比較
- 第13回 現在進行中である英語の文法変化
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 60% 英語史の基礎知識を理解した上で英語の特徴を英語史的観点から説明できるかどうか、授業で扱った中英語・近代英語で書かれたテキストを和訳できるかどうかを評価します。

レポート	0%
平常点	40% 授業への参加・貢献度、ミニッツ・ペーパーの取り組みの状況を基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提基準:出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
 宗宮喜代子(2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社
 参考文献
 寺澤盾(2013)『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語学(音声学・音韻論)(1)

担当教員： マシューズ ジョン

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 月1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B405

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:3

更新者： AA0824

更新日時： 2026-01-12 17:32:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course introduces students to the study of Phonetics, the scientific study of speech sounds. It focuses on the segmental phonetics of English, or the study of individual speech sounds, but some interaction with other properties of the English sound system will also be covered. In addition, some attention will be paid to the differences between English and Japanese.

Overall, the course begins by highlighting the differences between English spelling and English pronunciation and recognizing the need for a different kind of alphabet to represent precisely how words are pronounced. While learning to use the International Phonetic Alphabet (IPA), students will study the phonetic features of speech gestures including tongue position, lip shape, place of articulation, manner of articulation and more. Starting from the familiar set of 5 vowels (母音) in Japanese, we will study the 14-vowel system of English and then progress through the different classes of consonants (子音). The course ends with students learning about segment pronunciations change in fluently produced English speech.

科目目的

Studying the phonetics and phonology of English will give students a deeper understanding of the sounds of spoken English, their relationship to English spelling, and the principles that govern their sequence patterns within words. By connecting phonetics to pronunciation, students will identify aspects of their own English speech that would benefit from targeted pronunciation training and practice. Students interested in pursuing a career as an English teacher will gain a strong foundation that will prepare them for learning how to teach pronunciation.

到達目標

This course provides students with an in-depth understanding of segmental phonetics. Students will learn precisely how individual speech sounds of English are produced, with a special emphasis on those segments in spoken English that are not part of spoken Japanese. Students will become familiar with the International Phonetic Alphabet, or "IPA", which consists of a complete set of symbols for writing all of the speech sounds used in human language, though we will focus primarily on the symbols needed for the precise representation of Japanese and English pronunciation. Connecting phonetics to pronunciation will give students a strong foundation in the description and explanation of how English speech sounds are produced which will equip them to improve their own English pronunciation or to guide others in gaining accurate, fluent speech in English.

授業計画と内容

1. Pronunciation and the limits of English spelling
2. The International Phonetic Alphabet (IPA)
3. Sonority and segment classes
4. Vowels: tongue height and tongue position
5. Vowels: lip rounding and muscle tenseness
6. Manners of articulation: glides, liquids, and nasals
7. Mid-term summary and review
8. Manners of articulation: stops, fricatives, and affricates
9. Places of articulation
10. Fluent speech
11. Segments and syllables
12. Linking, deletion, and blending
13. Stress and vowel reduction
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	33%	Test 1 covers the contents of the first half of the course.
期末試験	33%	Test 2 covers the contents of the second half of the course. It is not a comprehensive final exam covering the whole course.
レポート	0%	
平常点	34%	Online exercises included in each week's lesson.
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Feedback is generally provided online once the submission period for an assignment has ended. When assignments require manual grading, students can expect to receive results within one week following the end of the submission period. In some cases, feedback that applies to several students will be posted to Manaba either in Course News or in a Discussion Forum.

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

Extensive use of online polling for reviewing and summarizing lecture content throughout the course. Students should come to class equipped with an internet-enabled device, such as a smartphone, tablet, or laptop computer.

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

テキストは無いけど教材が教員に配布されます。

参考文献

1. "English Phonetics and Phonology: An Introduction." Philip Carr. Wiley-Blackwell. 2012.
ISBN: 978-1405134545
2. 『音とことばのふしぎな世界』川原繁人著 岩波科学ライブラリー. 2015
ISBN: 978-4-00-029644-1

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(音声学・音韻論)(2)

担当教員: マシューズ ジョン

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B406

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA0824

更新日時: 2026-01-12 17:37:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course introduces students to the phonetics of syllables, stress, words, compounds, and phrases, as well as intonation in sentences and larger discourse in spoken English.

The course begins with how segments are organized into syllables, including their constituent parts. We then move to the grouping of syllables into larger units of prosody such as the "metrical foot", a unit used to analyze poetry that applies equally well to the study of everyday spoken language. It is particularly useful in understanding the rules of English stress in words, compounds, and phrases. The course finishes with students learning about the different intonation patterns used to signal grammatical and pragmatic meaning in spoken discourse.

科目目的

The purpose of studying the phonology of English is to understand the principled organization of speech sounds in patterns that give English its distinctive rhythm and melody. It also provides a deeper understanding of the changes words undergo when they are inflected with grammatical and derivational endings. Moreover, comparing the phonological principles of Japanese and English will make clear many of the pronunciation challenges Japanese learners of English face and some of the strategies available to overcome them.

到達目標

Students will gain a comprehensive understanding of the sound patterns of spoken English. This includes how speech sounds are pronounced together in syllables which are themselves organized into larger units of stress and intonation. The phonetics and phonology of English will be studied in depth, and students will learn how to apply what they learn to their own English pronunciation, with a particular emphasis on fluency gained through improved phrasing, stress and intonation.

授業計画と内容

1. Segmental and Suprasegmental phonetics
2. Segment classes
3. Sonority hierarchy
4. Syllabification
5. Syllable constituents and syllable structure
6. Syllable linking in fluent speech
7. Mid-term summary and review
8. Prosodic Foot structure
9. Stress and accent
10. Word structure and word stress
11. Complex and Compound words
12. Phrasal stress
13. Intonation and Pragmatic force
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

- 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	33%	Test 1 covers the material from the first half of the course. That material will not appear on Test 2.
期末試験	33%	Test 2 covers the material for the second half of the course. The contents of Test 1 will not be repeated on Test 2.
レポート	0%	
平常点	34%	Online exercises must be completed every week.
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

Weekly quizzes will be administered online. Test 1 and Test 2 will take place on campus during class time. They evaluate your knowledge and understanding of the material from the first half and the second half of the course, respectively. There is no comprehensive final exam to review the whole course in a single test.

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Most quizzes are graded automatically with results available on Manaba once the quiz period ends. Tests are graded manually. Answers will be available shortly after the test time has ended, and student test scores will be available through Manaba, typically within about one week.

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

Extensive use of online polling for reviewing and summarizing lecture content throughout the course. Students should come to class equipped with an internet-enabled device, such as a smartphone, tablet, or laptop computer.

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the instructor. In addition, all class materials will be made available on-line through Manaba.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(形態論・統語論)(1)

担当教員: 木村 崇是

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B407

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AD1422

更新日時: 2026-01-12 14:12:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、英語の文を対象として文の構造の基礎論を学ぶ。前半では、文構造の基礎を1歩ずつ学んでいき、後半ではそれに基づいて、各範疇に関する主要な現象と理論を扱う。

科目目的

英語の基礎的な文法現象について、生成文法理論に基づいて記述・説明ができるようになることを目的とする。

到達目標

- ・生成文法理論に基づき、基本的な文の構造を記述することができる。
- ・基礎的な文法現象について説明することができる。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1週 文法の構造と言語学の目標
 - 第2週 構造的階層性と多義性
 - 第3週 名詞句の構造
 - 第4週 動詞句の構造(1): 基礎
 - 第5週 動詞句の構造(2): 項構造
 - 第6週 時制と一致、助動詞
 - 第7週 補文構造
 - 第8週 ここまでのまとめと内容理解の確認
 - 第9週 名詞句移動: 格理論と受動化、虚辞(there)構文
 - 第10週 定形節と不定節: コントロール理論と繰上げ
 - 第11週 主要部移動
 - 第12週 WH移動と量化詞移動: 演算子と作用域
 - 第13週 移動の制約
 - 第14週 全体の振り返り

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 70% | ・用語や概念を十分に理解し、授業で扱った内容をカバーできているか
・授業内で扱った内容を踏まえて発展的な問題に対して論理的な考察ができているか |
| レポート | 0% | |

平常点 30% 定期的に理解確認のための課題の提出を求める。提出回数および内容の理解度を総合的に評価する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

知識積み上げ形式のため、欠席すると授業についていけなくなります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

レジュメを配布するため、特定のテキストは指定しない。
参考文献は毎回の配布資料に付記する。

参考文献:

Radford, A. (2016). *Analysing English Sentences*. Cambridge University Press.
Haegeman, L. (2006). *Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis*. Blackwell.
渡辺 明. 2009年. 『生成文法』東京大学出版.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(形態論・統語論)(2)

担当教員: 木村 崇是

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B408

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AD1422

更新日時: 2026-01-12 14:13:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

英語学(形態論・統語論)(1)で扱った内容を基盤として、主要な英語の形態・統語現象について学ぶ。適宜、英語と日本語の比較も行う。基本的な文の統語構造(樹形図)を記述できることを前提とする。

科目目的

英語の主要構文の形態・統語の現象とその分析について学ぶ。

到達目標

英語の主要構文について、その特徴や分析について説明できるようになること。

授業計画と内容

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 束縛現象
- 第3週 極性現象
- 第4週 省略現象
- 第5週 有界性と完結性
- 第6週 結果構文
- 第7週 tough構文, 中間構文
- 第8週 倒置現象
- 第9週 ここまでのまとめと内容理解の確認
- 第10週 日本語の束縛現象と省略現象
- 第11週 日本語の格とかき混ぜ
- 第12週 日本語の受動態
- 第13週 日本語の作用域とWH疑問文
- 第14週 全体の振り返り

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

- レポート 60% 授業で扱ったものの中からトピックを選択し、授業内容を踏まえて自身で考察し、論理的にまとめた上で小レポート形式で提出してもらおう。以下の基準から総合的に評価する。
 - ・授業内容を正しく理解しているか
 - ・考察が論理的であるか

・独自の論考や検証が行われているか

平常点 40% 授業に能動的に参加しているかどうかを総合的に評価する。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用せず、授業内で資料を配布する。

参考文献:
中村捷・金子義明編『英語の主要構文』研究社
中村捷・金子義明・菊地朗『生成文法の新展開』研究社
影山太郎編『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語学(意味論・語用論)(1)**担当教員： 細井 洋伸**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：金1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B409

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:3

更新者：AC3598

更新日時：2026-01-10 16:45:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

このコースでは、特に意味論に焦点をあてて勉強していきます。意味論の分野でも、意味論に必要とされる基本的概念、単語や文に関する意味、形式意味論、さらには、アスペクト、テンス、モダリティにも少し触れて行きます。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「各専攻の学問分野において求められる専門的な知識」を習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、学生が、英語の文法的観点から見た様々な特徴について、これまでの英語学の知見を活かして、他者に説明できるようにする。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1回： 授業概要説明
 - 第2回： Semantics in a Model of Grammar
 - 第3回： Reference
 - 第4回： Word Meaning (Hyponymy, Polysemy, Synonymy)
 - 第5回： Word Meaning (Opposites, Hyponymy, Meronymy)
 - 第6回： Sentence Relations and Truth
 - 第7回： Logic and Truth (1): Negation and Conjunction
 - 第8回： Logic and Truth (2): Disjunction and Implication
 - 第9回： Entailment and Presupposition
 - 第10回： Formal Semantics: Translating English into a Logical Metalanguage
 - 第11回： Formal Semantics: Predicate Logic
 - 第12回： Sentence Semantics: Classifying Situations
 - 第13回： Tense and Aspect
 - 第14回： 総括・まとめ：形式意味論の観点から
- 定期試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジュメを事前に読み込み、分からないこと、疑問に思うことを頭で整理し、授業に臨むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 30% | 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。 |
| 期末試験 | 30% | 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から |

説明できるかどうかを評価します。

レポート	0%	
平常点	40%	出席状況、授業への参加・貢献度の状況を基準とします。 *6回以上休んだ者は、評価の対象としない。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:その都度プリントを配布します。

参考書・参考資料等:Saeed, John. Semantics, 3rd ed. (2008) Oxford: Blackwell.
杉本孝司『意味論1:形式意味論』(1998)東京:くろしお出版

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(意味論・語用論)(2)

担当教員: 細井 洋伸

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B410

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AC3598

更新日時: 2026-01-10 16:46:1

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

このコースでは、言葉の意味の中でも、私達が生きている世界に対する認知あるいは実際のコミュニケーションに関係するものを扱って行きます。具体的には、認知言語学・語用論に焦点をあてて勉強していきます。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「各専攻の学問分野において求められる専門的な知識」を習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、学生が、英語の文法的観点から見た様々な特徴について、これまでの英語学の知見を活かして、他者に説明できるようにする。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1回: 授業概要説明
 - 第2回: Cognitive Linguistics: some key concepts
 - 第3回: Categorization
 - 第4回: Prototype Theory
 - 第5回: Metaphor
 - 第6回: Metonymy, Synecdoche
 - 第7回: Image Scheme
 - 第8回: Construction
 - 第9回: Pragmatics: Deixis
 - 第10回: Cooperative Principle
 - 第11回: Conversational Implicature
 - 第12回: Speech Act Theory
 - 第13回: Politeness
 - 第14回: 総括・まとめ: 認知言語学、語用論とは
- 定期試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジメを事前に読み込み、分からないこと、疑問に思うことを頭で整理し、授業に臨むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 30% 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。

期末試験	30%	英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	出席状況、授業への参加・貢献度の状況を基準とします。

*6回以上休んだ者は、評価の対象としない。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: その都度プリントを配布します。

参考書・参考資料等: Saeed, John. Semantics, 3rd ed. (2008) Oxford: Blackwell.
 Yule, George. Pragmatics, 1st ed. (1996) Oxford: Oxford.
 Chapman, Siobhan. Pragmatics, 1st ed. (2011) London: Palgrave.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語学(心理言語学)(1)**担当教員： 平川 真規子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B411

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:3

更新者：AA1626

更新日時：2026-01-10 22:05:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

心理言語学について概観します。前期は母語習得のメカニズムについて、心理言語学的な観点から日本語と英語の習得を中心に学びます。語彙・統語構造の習得と理解に焦点を当てます。また、二つ以上の言語環境で育つ子どものことばの発達や手話についても学習します

科目目的

本講義では、母語獲得・言語理解・言語産出の研究において、どのような目的でどのような研究が行われているのかを理解し、母語の発達メカニズムについて考察することを目的とします。

到達目標

本授業では、母語話者による第一言語の獲得・言語理解・言語使用に関して、これまでの研究成果を理解し、基礎的知識を修得することを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回：心理言語学とは
- 第2回：母語獲得における言語情報と言語知識
- 第3回：幼児のことばの特徴：日英語(1)
- 第4回：幼児のことばの特徴：日英語(2)
- 第5回：バイリンガル児の頭の中
- 第6回：英語母語児の言語獲得(1)
- 第7回：英語母語児の言語獲得(2)
- 第8回：英語母語児の文法：((空)主語・(再帰)代名詞・数量詞の知識)
- 第9回：英語母語児の文法：典型的な文と派生構造
- 第10回：文の産出・言い間違い
- 第11回：文の理解・処理
- 第12回：手話の獲得
- 第13回：心理言語学実験の手法
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 授業内容を十分に理解できたかどうかを確認します(論述問題を含む)

レポート	0%
平常点	40% 毎回の授業内容に関する課題・議論への積極的な取り組み
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席および課題の未提出は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を使い、毎回の授業の理解度を確認しながら、授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

初回の授業で指示します。

参考文献:

『子どもに学ぶ言葉の認知科学』広瀬友紀著 2022. ちくま新書 ISBN: 978-4-480-07493-5

『言語の本質』今井むつみ・秋田喜美著 2023. 中公新書 ISBN: 978-4-12-102756-6

『レキシコンの構築 子どもはどのように語と概念を学んでいくのか』今井むつみ・針生悦子著 2017. 岩波書店 ISBN: 978-4000025386

『はじめての言語獲得——普遍文法に基づくアプローチ』杉崎鉦司著 2015. 岩波書店 ISBN: 978-4000058391

『ことばとこころ—入門心理言語学』村杉恵子著 2014. みみずく舎 ISBN 978-4-86399-269-6

『ことばと思考』今井むつみ著 岩波新書 2010 ISBN 978-4-00-431278-9

『言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで』今井みつみ・羽生悦子著 ちくま学芸文庫 2014. ISBN 978-4-480-09594-7

『How Children Learn Language』O'Grady, William. 2005. Cambridge University Press.

『Psycholinguistics 101』Cowles, H. Wind著. 2011. Springer Publishing Company.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名: 英語学(心理言語学)(2)

担当教員: 平川 真規子

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B412

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA1626

更新日時: 2026-01-10 22:18:4

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

心理言語学(2)は第二言語に焦点をあて、文法知識の獲得・言語理解の研究を概観し、第二言語獲得のメカニズムを探ります。また、継承語(Heritage Language)や第三言語についても検討します。

科目目的

第二言語の文法知識の獲得、言語理解や言語使用の基礎知識を習得します。様々な心理言語学的な実験手法が、言語に関するどのような疑問に答えることができるのか、理解することを目的とします。

到達目標

第二言語の文法知識の獲得・言語理解・言語使用に関して、これまでの研究成果を理解し、基礎的知識を修得することを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回: Introduction: 第一言語習得と第二言語習得の違い
- 第2回: 第二言語獲得研究への言語学的アプローチ(与格交替)
- 第3回: 関係節の研究(英語・韓国語・日本語)
- 第4回: 第一言語の影響
- 第5回: 中間言語の特徴
- 第6回: 有標性と言語転移
- 第7回: 回避の現象
- 第8回: 痕跡の心理的実在性
- 第9回: 意味役割と格の影響
- 第10回: 文処理における文法制約の影響
- 第11回: 年齢要因
- 第12回: 継承語話者の文法知識
- 第13回: 第三言語の獲得
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 授業内容を十分に理解できたかどうかを確認します(論述問題を含む)
- レポート 0%

平常点 40% 毎回の授業内容に関する課題・議論への積極的な取り組み
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席・課題の未提出は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を使い、毎回の授業の理解度を確認しながら、授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
初回の授業で指示します。

参考文献:

白井恭弘(2008)「外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か」(岩波新書) ISBN: 978-4004311508
白井恭弘(2004)「外国語学習に成功する人、しない人: 第二言語習得論への招待」(岩波科学ライブラリー) ISBN-13 : Ortega(2013). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.
Traxler, M. J. (2011) Introduction to Psycholinguistics: Understanding Language Science. Wiley-Blackwell.
Nakayama, M. (2015) Handbook of Japanese Psycholinguistics, De Gruyter Mouton.

オフィスアワー

その他特記事項

英語学(心理言語学)(1)の内容を理解していることが望ましい。

参考URL

備考